代、小衲符

州徹源孝法は95代。明菴秋正大和尚は94代、わが本師平等元禅師は51代、瑩山

94

檀代、

様は仏戒を受け

ħ

代目 の皆

0

「お釈迦さまの

## 御征忌焼香師 住 職 丸子 孝法

さま

如 5

浄

褝

上 師 が 50

28 遊 様 な

か

数えて達磨

道 が

| 元禅師

発 行

**₹**633-0001 桜井市三輪38 三輪山平等寺 TEL/FAX http://www. byodoji.com/

させて頂き、 清福をご祈念申し上げます。 ました。 永平寺御開山道元禅師:昨秋九月二十五日、大 法悦この上なく有難く思 御征忌の焼香師をつとめ 真前に焼香礼拝、 頭に あ たり かたじけなく 皆 々様 様

 $\mathcal{O}$ 

年

も御

お ば 第 96 とめたいと思います。 願 身を以って行じるように した「流行悟道」 福山諦法禅師様より拝誠に尊い仏縁です。 本年もどうぞよろしくお 致します。 子 です。 のお心を

0744 - 42 - 6033



大本山永平寺 丸子孝法老師焼香師記念 平等寺本山参拝団 平成23年御征忌

とり

が

5

昼

食

定

と記

念写真

た

りに

通

ŋ

大

Ш

永平

到 予

た 刻

 $\mathcal{O}$ 

法

にい

非 山

丸

価 堂

 $\mathcal{O}$ 

あ

る

日

لح

な

0

 $\mathcal{O}$ 

子

はの

受け

た

じ

け

観

土

0

原 味

温 噌 永

きました。

賀

ŋ

 $\mathcal{O}$ 

名

豆

Þ れ まし

永

### 永平寺

団

佐 藤 和

彦

七に大征

開 福 子 孝 る Щ 法 九 諦 法 住 月 禅 職 袓 + 道 師が 元禅 様 大 五 本 日 師 代山 お平寺 様 亚 の御 等 寺

誉でござ  $\bigcirc$ 百 「 ケ 寺 曹 名 年 を  $\mathcal{O}$ 派 洞 度  $\mathcal{O}$ お 宗管長 は 布 11 拝 香 権大教 まし 住 教 命 洞 とい 職 師 中、 として全国を 禅 な 師 師 う大変な栄 玉 5 師) 丸 に昇補な 年 様 れ ること 子住 万 と  $\mathcal{O}$ 間 四千 御 僅 1 . う 名 職 カン 気持 事は 福 Щ

兀

は

名が. 檀家の 全員 護持 <del>-</del>+ 4 ま 桜 兼 関 して るの 致 を 拝となった次第で 本い 丸 活 東 代 子住 掛 井 務しておら 係 Щ という事で護 躍 奔 0 が三 大型 会とし をさ ま け •  $\mathcal{O}$ お は 五. 参 西 て心 天理 走さ バ ある方々、 りましたが、 拝 か L 方 初 日 職 のめての · 二 十 ス 輪 バ 々も交えて早朝 旅  $\mathcal{O}$ れ 0 ス二台に乗 ておら ても本山 行が決 雰 を引き締 • 晴 Щ n 奈良 囲 平 曹洞 中 れる久松寺様 れ 六日 で 候 等 持 姿を見学し 気 事 す。 以より九・ 以定され-で心 会の総合 丸子住職 は 寺  $\mathcal{O}$ ŧ れ 宗 平等寺に一个参拝す 小の為に 会話 ます 中  $\emptyset$ の輪袈裟 御 好 平等寺 て参加 天に 本 休 車 十三 より 会で して が 憩 Щ 九 が を 恵 月 た 御 弾 参 が  $\mathcal{O}$ 無事に きな声で させ 真を撮 禅師 等寺 師後、 侶、 あ  $\mathcal{O}$ 荘

様

恩

の香

語

法要

焼

香

師

堂

丸子 人 厳 経 Щ 諦 いち の中で: 住 修 諦 な 法 香 に 一度と無 行僧が読 で一杯で が法要 させ み上 禅 上 師 の囲 ŋ 先 て げ 様 祖 と 頂 先 員 の山 大勢 と 思 . の くきま 他、 包  $\mathcal{O}$ 経 L 祖  $\mathcal{O}$ 読 規則に従い に、大勢の僧 た。 供 ま 代 氏 法 養 1  $\mathcal{O}$ L Þ 名 褝 その  $\mathcal{O}$ 感 を 僧 中 師 す 謝 侶 供 様 後、 福 る 養 平  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 始 参 等 到 泉

丹羽禅師は Lをする と別室 ます。 先 を 7 要 法 を で 縁 頂きました。 が を 勤 Þ لح 祖 撮 福  $\mathcal{O}$ 堂 結  $\mathcal{O}$ す が で 終  $\mathcal{O}$  $\otimes$ 了し 参拝 べ 開 でば 供 山晴 本 は が  $\sim$ 様にもお逢 あ を 2 って熊澤 7 お参りする 養 諦 れ  $\mathcal{O}$ れ Щ 始 法堂で先祖 進 福山諦法 におきした。 におきした。 た皆様 ;の記念写 姿を 高 が 頂 法 参  $\emptyset$ できて 拝  $\hat{\mathcal{O}}$ 祖大 き、 禅 終 其 師 目  $\mathcal{O}$ t 亚 師 わ 禅  $\mathcal{O}$ 本 様  $\mathcal{O}$ 11 た私もだ て先代秋 + -法 翠 廃 を لح 出 さ と を初 せ 同じ北 れたの 身で昭  $\mathcal{O}$ ま 燈 松 仏 申 尋 建 は てるの 年六月に を 寺 L ね 棄 托 غ て 釈 出 堂 灯 新 鉢 まし 陸 正 天 復 で L 仮 で 興 昭  $\mathcal{O}$ 取  $\mathcal{O}$ 理 に 集 て

様、

7

私

も仏

って

を思

ま

と仏

焼 は

香 兀

口

目

子

住

職

の縁

征

忌

法

で  $\mathcal{O}$ 人に 賑 る 寸 が 去 奥 出 宿 姿 様 大 Þ  $\mathcal{O}$ 席  $\mathcal{O}$ 女を見て 、役を 御 浴 酒  $\mathcal{O}$ ラン 苦 を 達 喜 に と食 労 び 0 同 が は 事 隠 いると丸子 、だり 花 如 イ 特に 芸やら 済まし 会が を 何 T 咲 芳 ば 歓 て、 かか 丸 談 始 ŋ 住 せ

職と 六 願 して浄財を集めている事を知平等寺再興を志し托鉢行脚 たのだと思 住 Ξ. と T 丸 子 過 が 法 十 11 拝 職 開 年 前 住 湯 湯 県 出 和四十六年住 が最初でし 職 後 師 さ はだと思 本 方丈様との کے ました。 の事務で 材木 水めた浄 た。 導 山 平 名 ŋ 出  $\mathcal{O}$ を 和 1 、た寺を 身なの 平 師 永 等 称 壊 身で丸子住 出 Ŧī. 浄財で大 たし、 明治初 + で しになって 1 逢 た。 所に ま + ŧ 寺 七 呼 V 職 ょす。 。 で協 復 昭ば 約 似になっ 出 年 は ŋ 昭に 期 来た本 さ 活 和れ 束 昭 7 Щ 八落丹和悲 さ五  $\mathcal{O}$ 力 職 で 社い 堂最和 て 0 を 形

本 弘 が さ

務を代記 徳太子: してニ 五六名に 名から おける功な てあ 人柄の 範囲 和尚、 尽 の正 口 慶仁さん え 工  $\mathcal{O}$ 会会員も [の旅] 道で修 つも しく元 孝仁さんも 詠 魅  $\mathcal{O}$ 平 た形 でも ŋ 等 力」だと思 事 接 建 体 W 行でも 寛仁され 寺三 丸 平 良さと人を引きつけ だ が 等 像 設、 切 重 中 + 日 L 修 跡 てく 桜 成二十二年度に 理、 に 子 とうござ 行 ŧ な 平 績 は 丸 Þ 造 不  $\mathcal{O}$ 興 六 され りま 成 立, 微 住 青 井 住 は 子 を 平 動塔 L 年 東  $\mathcal{O}$ 輪 見当たり 随分お世 ように ん、 |派に成| 十二年 大きく、 等 上 尋 れ 笑をたたえて 職 嵐 市 職を見習い 陣頭に立 住 終 寺 堂 て 八 え、 Þ てい した。 庫 寺 八 長 V 職 務  $\mathcal{O}$ 人 月 、ます。 道仁さ 夫妻 無 池  $\mathcal{O}$ 裡 開 新 迦 百 慶 11 所 まし ・ます。 受き 度一一 平 私 堂) 築、 廻 宴 話にな 基 円 田  $\mathcal{O}$ • 日 努力、 物 って じ 会 副 等 研 カコ  $\mathcal{O}$ 屋 開 記 褝 ん、 た。 住は二 仏 ま  $\mathcal{O}$ Þ 護 寺 知  $\mathcal{O}$ 中 根 山修 表 念 観 れ 今 〇持 子 にる 合 私 無 教 ま職職 る لح 聖道 門再 替 大 輪

### が 大本心永

。 の

報恩

の香語

有其 是 面 到 於 是 正 派 到 於 是 正 派 到 於 決 法 是 是 生 的 是 正 派 到 於 剂 。

被将多中三年四日九月七五日

化布真慈起職者

【大意】仰ぎ慕う道元禅師 様のいますが如きそのお姿 様のいますが伝わり、私孝法 が九十五代となりました。 が九十五代となりました。 であります。その坐禅が根本 であります。その坐禅が根本 であります。その坐禅が根本 であります。その坐禅が根本 であります。その坐禅が根本 であります。その坐禅が根本 であります。その坐禅が根本 であります。その出漢が根本 であります。その出漢が根本 であります。その出漢が根本 であります。その出漢が根本



るのです。
共に伝え導いて下さっていして、今も尚、禅の道を私たとえれば月を釣り雲を耕たと一体、真理と一体となり、

# 被災地に心を寄せて

震災 なら でしたが、被災地の皆様に 災前から腰痛がひどい状態 私も桜井駅と田原本駅で募 動をすることになりました。 各々の最寄りの駅で募金活 次 を合わせていました。震災 災地の方々の無事を祈り手 ることをやりました。 なんでもないと思い くらべたら私の腰痛なんて 金活動をしました。私は震 から3日後に募金箱を作り、 の日の早朝から僧侶達が 昨 から れた方々のご冥福と被 年3 毎日 月 11 日の 震災で亡く 東日本大 でき

4月初めに僧侶6名と一 4月初めに僧侶6名と一 が涙を流しました。何もかを行ってきました。何もかを行ってきました。何もかをが津波に流されていた、 あまりもの悲惨な状況に皆が涙を流しました。まだ積

がら、 届けました。 に温かいコーヒーが飲めま 緯をお話しくださった方も に一生を得た体験や辛い経 聞きしました。 れていました。 ぬいた被災地の方 もないところで精 のニーズをまとめて役所に した」と喜んでいただきま いらっしゃいました。「久々 11 した。夕方には避難所の方々 物とお茶菓子をお配りしな 悲しみの中に先の見えな 過酷な避難生活を強いら お身体の調子等をお 温かい飲み 中には九死 暖 杯生き 房

高 さ 10 りは過去に何度も津波があっ 内いただきました。この辺 れ汗だくになりながらかき ろもあり、全員で泥にまみ やゴミの撤去でした。 は津波で側溝に溜まった泥古市に行きました。その時 たところで、それを教訓に の方に宮古市田老町をご案 出しました。最終日、 が完全に埋まっているとこ 5 月には10名で岩手県宮 のスー 地元 側溝

いまだに津波の傷跡は生々いまだに津波の傷跡は生々の見通しが立たちません。の見通しが立たちません。の見通しが立たちません。の見通しが立たちません。

## 梅花講だより

縁を頂いて

美

亡くなり大変お世話になっ 唄のように御詠歌を聞 流れており子供たちは子守 たからです。 御詠歌の会にお世話になっ た後岡繁子様から、 育ちました。そんな義母が V のお道具を生かしては……。 つも家ではテープの音が が御詠 義父が亡くなり義 歌と出会ったの 義母は熱心で、 いて 母が

とお誘いいただき思い切っとお誘いいただき思い切っとお誘いいただきました。 神智 日も子供の懇談会等で何習日も子供の懇談会等で何習と欠席することが多く、 た輩方に手取り足取りの状態で教えて頂きました。 練習を重ねるうちに、心に響習を重ねるうちに、心に響 でものを感じる事が出来るくものを感じる事が出来る くものを感じる事が出来る



、 御縁を頂いて私達家族は、 海縁を頂いて私達家族は、 毎年欠かさず年末お寺にお 方丈様からお屠蘇を頂き、 方丈様からお屠蘇を頂き、 す。これからも、お年始・す。これからも、 お年始・ は で ま で が い と ま っ で が い と ま っ で が ら お 屠 蘇 を 頂 き 、 お 寺 で 新 年 を か ら お 屠 蘇 を 頂 き 、 お す で 新 年 を か ら お 屠 蘇 を が と ま っ で お り ま す 。

### 法戦

式

方い

胸  $\mathcal{O}$ 

をか です。

ŋ

自 法

分

0

成

| 長を披 越

<  $\mathcal{O}$ 

戦

式とは先輩

#### 丸子 慶仁

ŧ, 僧 行僧  $\mathcal{O}$ 敵 0 吉 問 達と 僧 古と 始 わ 法 平 !戦式 ことをあたかも 自 め ない 野 がこの時ばかりは 達 11 行われまし 対等 たば 様に実践 に لح 同じようなもの 分自身が実践できて  $\mathcal{O}$ 大変恥ずかしいことで スとは相談 れはこうなんだぞと 対して仏教の 問答をします。 と分かってい 東 になり かりの 禅寺様に 撲の しているかの 先輩 月二 未 知って 熟 Š 7 る先輩 教えの 先輩 (T) 者 で 法 + 2 この修 修業 す。 難 か 戦 日  $\mathcal{O}$ 



です。 るかの な 偉そうに言って答えていくの 中 V -からこ

有り えら 台本にそって問 分 たって行く様に を 打ち付けら 自 行 する場です。 れな 難 身 僧にとっ い言葉の 試 V す 場 壁に自 れ、 てこ 0 答は 意味があり、 一つなのです。 大きな乗り つ一つに胸 の上ない自 まだその言 からぶちあ 行われ、



と思い とお まし 来ない自 れ 皆 0 つですが た。 一様に温い 互. 無事に終えることができ 意 味を 知らされる式なのです。 11 最後に 向 分をなんと情けない ちが カン かく見守られ支え かみ砕くことが出 その 11 父である師匠 胸 合 時ばかりは 11 っぱ 参拝をす

6

拝をすることが そのような気持ちでした。 を持 だろうか。 まで はその時はじめて心からの なという気持ちです。 かりでどうしようもなかった れに気付きもせず ですみません た。 が み上げまし することが な 出 って生きら 導 父と母 ゙゙まし れば いていただ 自分の人生に責任 少しはましになる た。 0 でしたと思い おか 出来たのです。 至らな できたのです。 れるだろうか。 至らない 11 抑 げ え切 たのにそ お坊さ でここ 1 息子 h 参 私 ば ま ず

九拝



み上げました。 孝仁 合掌した。竜輝は堂々と「達磨廓然」を読浴、竜輝が弁事に任命され、問答しま浴、竜輝が弁事に任命され、問答しま

#### 占 行 予定

2月 人の日正午 昼 13 時 初護摩会

3月 15 日 7 27 日 時

花祭り 4月 1 「ちごおねり」 日 10 時 大護摩会 募集

りがとうございます。愛がっていただきましたが、みー子も人変したが、みー子も人変したが、みー子も人変したが、みー子も人変したが、みー子も人変したが、みー子も人変したが、みー子も人変したが、みー子も人変したが、

し猫詣恋っ

【7月】上旬 1 第二日 日 旬 9時半 最勝会 子供坐禅の集い 本山研修会 曜日 作務の É

9 8月 23 日14時彼岸会 23 日13時 地蔵会

12 月 10 月 月 下 1 8 日 旬 梅花大会 朝 6 時

上 31 21 8 日14時終護摩会 旬 夜の鐘(一般参加 日 23 時 45 日 7 歳末托鉢行 時 成道会 摂心会 分

可

# 

Ē

日 4 曜 1 2 • 28 24 18 15 29 目 Ħ 日 14 日6 日 日 6 14 14 時半 時 時 時 時 |月は右記参照) 坐禅会 護摩会 水子供 梅花講 月仏参 祝祷朝 養 課

【1月】1日零時 修正会 食

は、もワワ

実似の

3 21 H 日 14時彼岸会 10 時 護摩会 涅槃会 星祭会

みー子が行く⑥
二匹の猫がいます。似て二匹の猫がいましたのでしょう。
は親子です。
りましたので捜していました。
でいましたが、みー子とになる時候には、いつもおましたが、みー子がいないます。
しかったのでしょう。でありがとうございます。

様まな

のしく

おたな

近畿外0753514443 近畿内0120148740 法話」が電話で聞けます。 曹洞宗布教師の「心の 近近法 朩 話

 $^{\circ}\mathcal{O}$ 

## 内

ます。 http://www.byodoji.com お 寺 ぜひ、ご覧くださせのホームページが にさい 0 あ

と共に、一刻な心よりお見舞に、一刻なりお見舞に 願 います。 災された t 11 申し上ば 早 い復興をからという。 震

怒りは暴力とは違いています。慈悲慈愛 がは履 物 を 揃えます。 が 増え続け が増え続け

合掌

集子